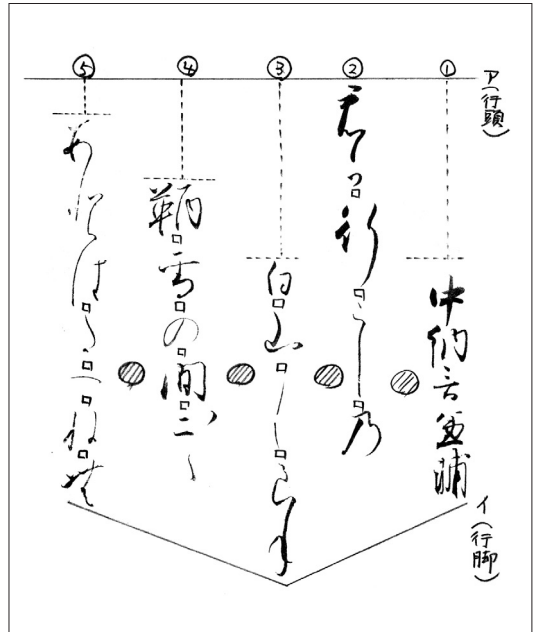


◆半紙たて書きに臨書して下さい。出品料430円

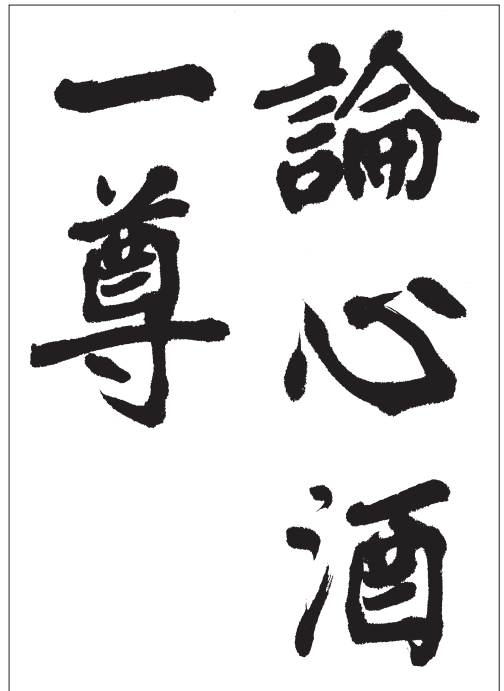
元永本古今集(391)



- 1、語句〓中納言兼輔 君可行こし乃白山し良年靱雪の間二くあ登は多つね無  
形式〓半紙をたてに使う。落款は左余白に本文に添う大きさを「〇〇臨」と入れる。
- 2、概観〓これまで七回行った元永本古今集の臨書では、元永本の特徴(漢字とかなの調和・放ち書き・連綿)を、拡大して学んできました。今月からは、それらの学習を踏まえながら、用紙への美的な収め方としての『散らし書き』について学んでいきます。
- 3、学習のポイント 散らし書き(1)  
(一)これまでの学習を生かすこと  
①漢字とかなを調和させること。  
「中納言兼輔」(二行目)を大きくしない。  
②本文の字間(口)を等しくすること。  
③「君可行」「良年」は側筆を使うこと。  
(二)『散らし書き』の基本として、次の視点をもつこと  
①「行間」(●)について考えること。  
一行目〜五行目までにできる四ヶ所の行間は、ほぼ等しくなっている。  
②「行頭の変化」(ア)について考えること。  
作者名の一行目を低く書き出し、和歌の書き出しである二行目を一番高くし、三行目の頭を作者名とそろえて低くし、四行目、五行目の頭をだんだん高くしている。  
③「行脚の変化」(イ)について考えること。  
三行目の脚が一番下になるように収め、一行目と五行目の脚を結びと三行目に集約され、紙面全体にまとまりが出ている。

半 紙 課 題 (予 告)

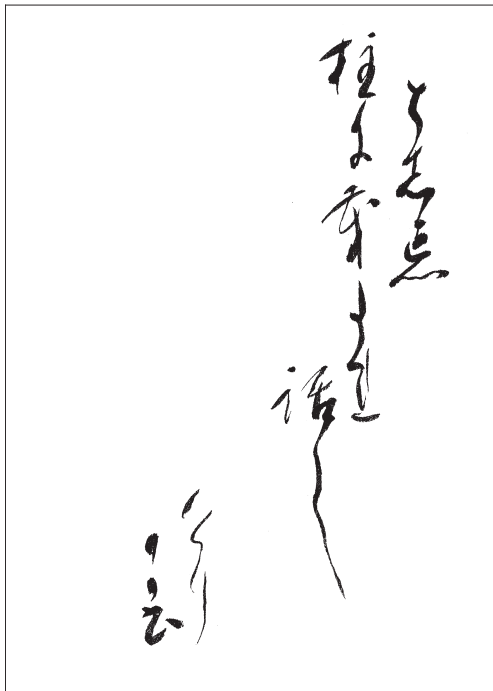
(十二月二十二日締切)

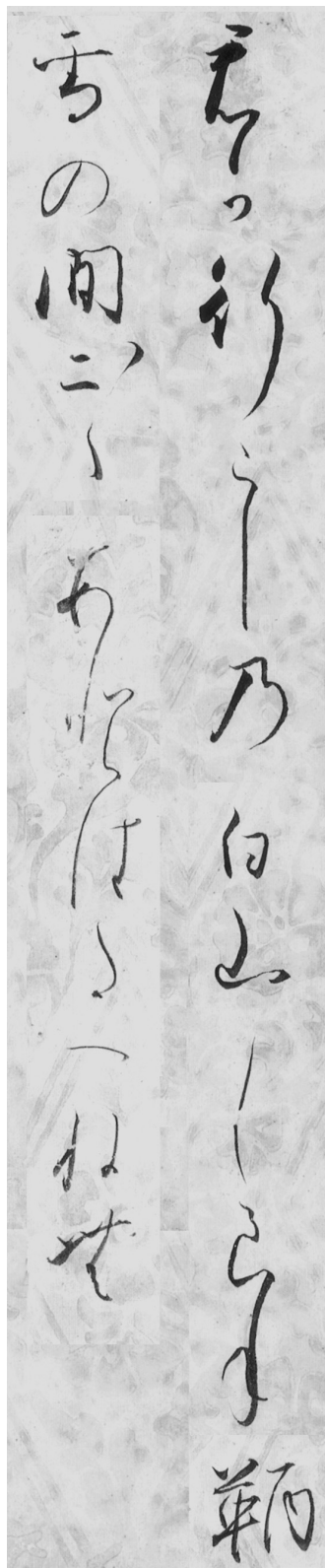


平岡華雪先生書 心を論ず酒一尊(馮文玉)

訳…心の底を打ち開き論ずるにはこの一樽の酒がある。

平岡華雪先生書 年忘柱にもたれ話しけり(虚子)





条幅随意部として

『君可行こし乃白山し良年鞆雪の間二くあ登は多つね無』  
和歌の部分のみ、半切に二三行の臨書とする。落款は、全体の調和を考えて「○○臨」と入れる。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

## 一字書（十一月二十二日締切）

課題

# 獄

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

A

高橋香樹会長書

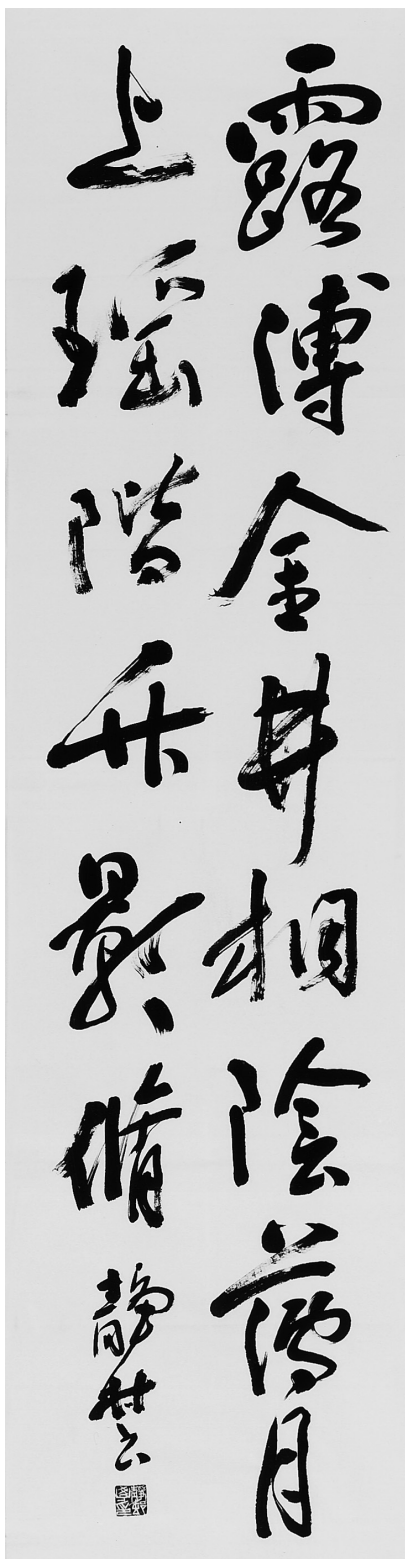
露溥金井桐陰薄 月上瑤階竹影脩 (李邕)  
 露は金井きんせいに薄うすいて桐陰どういん薄く月は瑤階ようかいに上のぼって竹影たけかげ脩ながし。



B

鈴木静村先生書

連綿線が多い為に作品が騒がしくなるのが気になっている。そこで、文字内の連綿線をできるだけ省くことを意識して書いた。少しは騒がしさを免れたように思うが、運筆における書き癖がやはり出てしまう。実線と連綿線をしっかり区別する必要がある。墨継ぎは「陰」と「階」。



意連の基礎として——偏から旁への意連の大切さを採りあげたいと思います。というのは、一文字内の筆意の流れの基盤だからです。ただ大事なことは、実画(線)となっているもの(露、虚画(見えない筆のつながり=空画)で脈絡しているもの(薄)があり、いずれにしても偏から旁へと筆はつながります。偏を書いてひと休みは不可。初歩段階者は、この習熟徹底を図ってほしいと思います。

訳：美しい井戸に露が降りて桐の陰が淡く映り、月が美しい階段を照らして竹の陰が長く映っている。

予告 (十二月二十二日締切)

林院鶴歸山色外

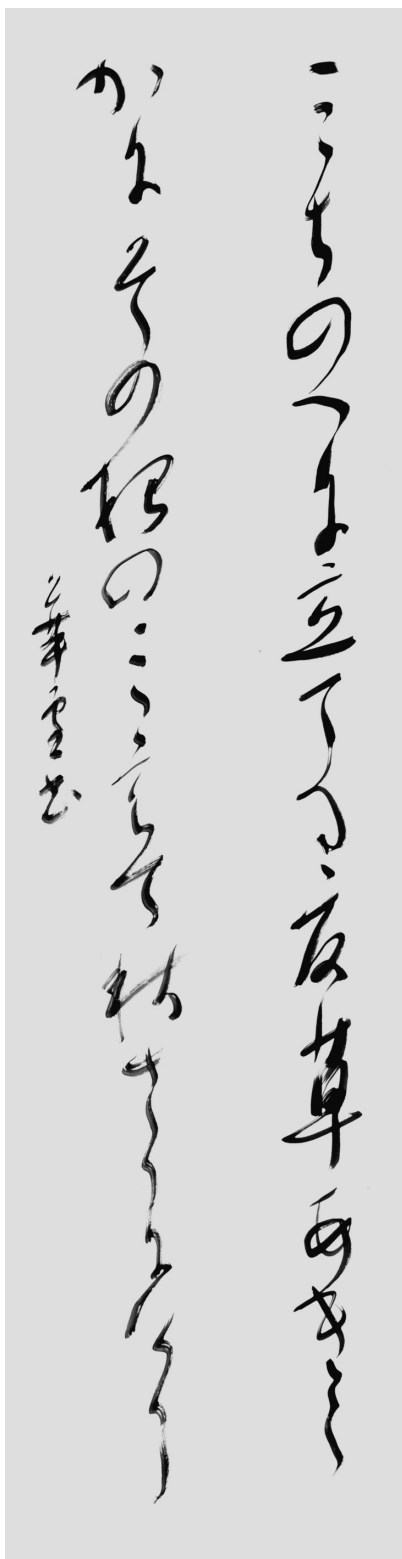
水亭人去夕陽前 (釋大圭)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

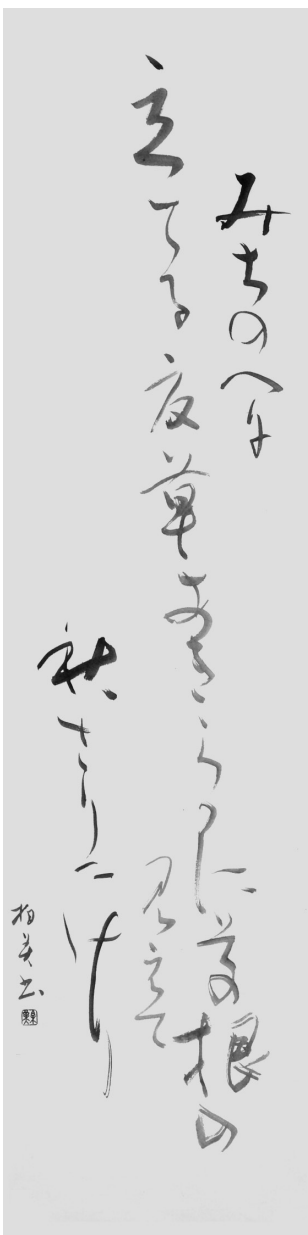
道のべに立てる夏草あきらかにその根の見えて秋さりにけり (窪田空穂)  
三ちのへル立てる夏草あきらかカルその根の三えて秋さり尔介り



B

石島柏美先生書

みちのへル立てる夏草あきらかにその根の見えて秋さりにけり



学び方

空穂の日常生活の中での自然を詠んだこの歌を、変体仮名「尔」「可」「二」の三箇所のみとし、全体に平仮名を使い、連綿も二つまでとして四行の散らし書にしました。四句目の「その根の見えて」は、「花」でなく「実」でもなく、「根」と詠んだ作者の心情に視点をあてて、二行目と三行目の下部にまとめました。一句目は小さ目に書き出し、二句目、三句目は自然の流れで続けますが、「夏草」で少し間をとります。四句目は濁筆で書き進めますが、「その根」はゆっくりと、特に「根」は少し筆圧を加えて書きます。三行目の「見えて」は「その根」に添わせるように。五句目の「秋さりにけり」で墨を入れ引き締めます。今回は四行書で少し難しいと思いますが、下部が重くならないように字間の間合い、線の太細、字幅の広狭などを考慮して各行が呼応するように心がけて下さい。

窪田空穂 (一八七七—一九六七) 歌人、国文学者、長野県出身、早大教授。歌風は客観性を重んじて、生活実感を歌い上げ、抒情性に富む。明治三十八年に第一歌集「まひる野」を発表後、小説、随筆、歌論、翻訳、「万葉集」、「古今和歌集」の評釈など多方面の業績を残している。

予告

(十二月二十二日締切)

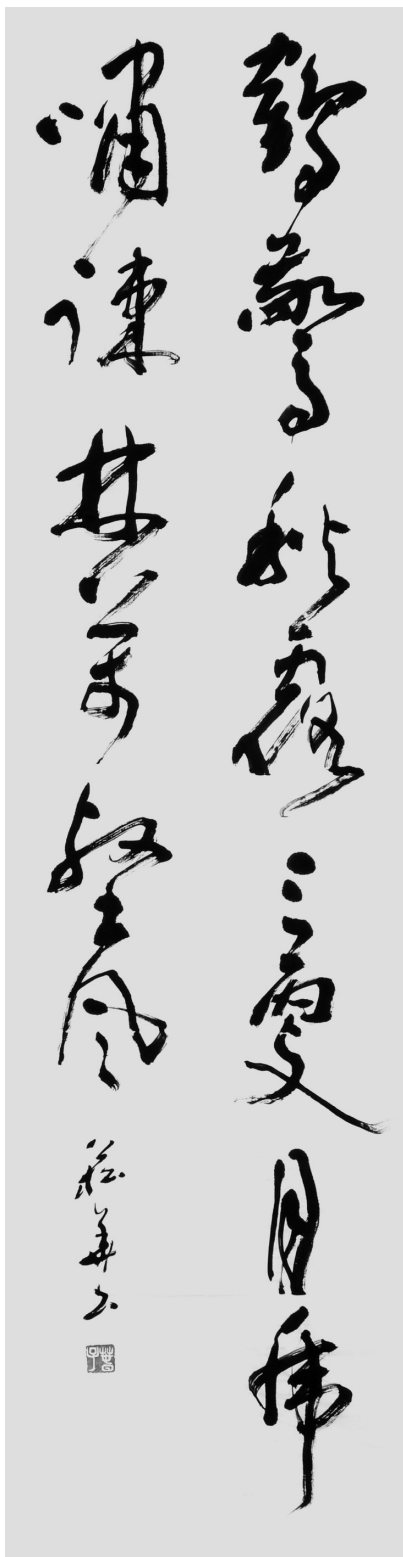
しらゆきのふりてつもれる山ざとは住む人さへや思きゆらむ (古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

小暮 崧華 先生書

鶴驚秋露三更月 虎嘯疎林萬壑風 (章宗)  
 つる びっくり 秋露 三更の月 虎は 疎林に 嘯く 万壑の風。



訳：鶴は三更の月の下秋の露に驚き、虎は深い壑の風に鳴き疎林を振動させる。

立川 遊汀 先生書

たちどまり見てをわたらむもみぢ葉は雨とふるとも水はまさらじ (古今和歌集 凡河内躬恒)  
 たちと 万り見てを 王多らむも 三ち葉は 雨とふると 裳水 八万沙ら志

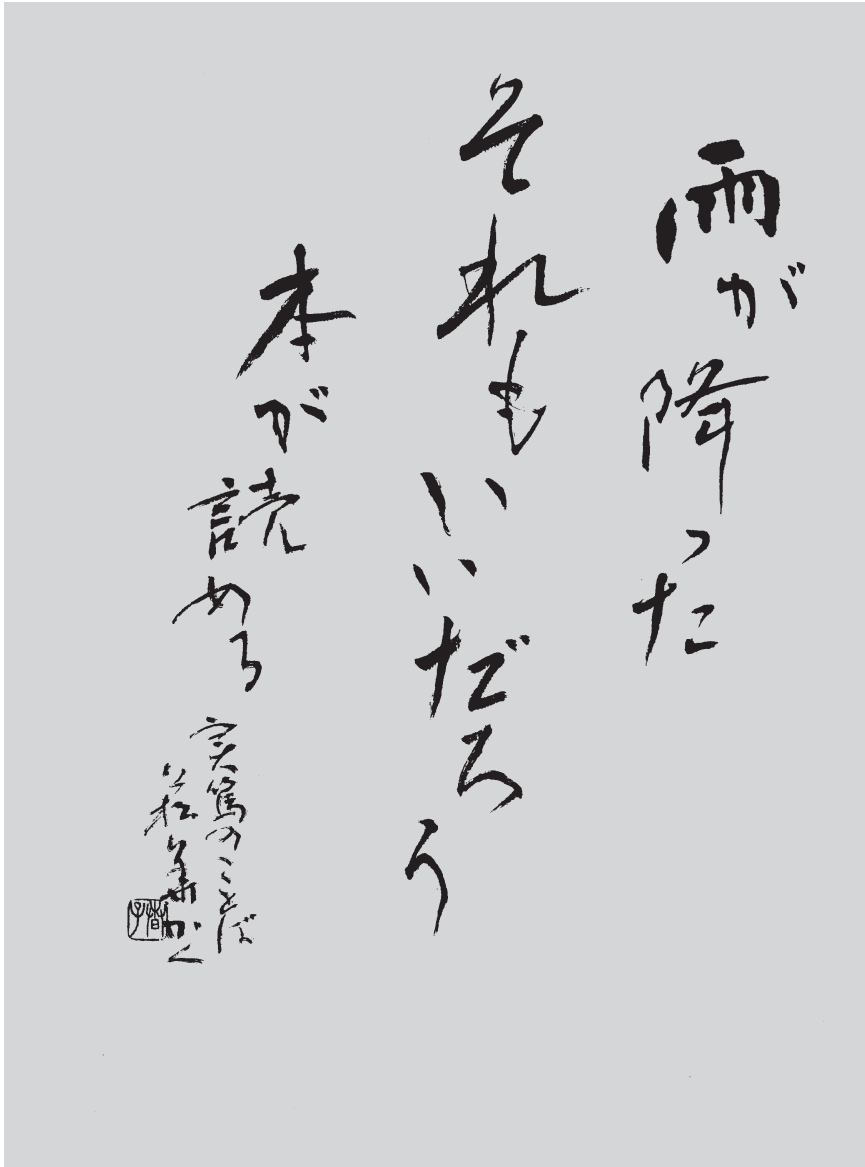


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

雨が降った  
それもいだろう  
本が読める 武者小路実篤

今回はひらがなの多い文です。ふつう、ひらがなは漢字より小さく書きますが、今回、「それもいだろう」は、この文の主な部分なので、一行を三つに分け、動きを大きく、字を大き目に書いてみました。皆さんもそれぞれ工夫してお書き下さい。



武者小路実篤（一八八五～一九七〇）  
小説家・詩人。東京生まれ。子爵家の末子。「白樺」を創刊。独特な口語文体で小説を発表。心を奮い立たせ、癒してくれる「名言」多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

荒城の人路無し(劉復)

訳：荒れ果てた城に人がいた気配は何もない。

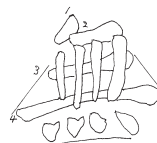
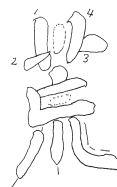
〈参考点として〉

荒、下部「儿」(シユン)で安定感。

城、斜画(戈法)がポイント。

無、三本目の横画長く(この字の主画、四点気持ちのつながりを。

人、一画目、鋭く入筆。路、偏と旁を巧く融合させる。

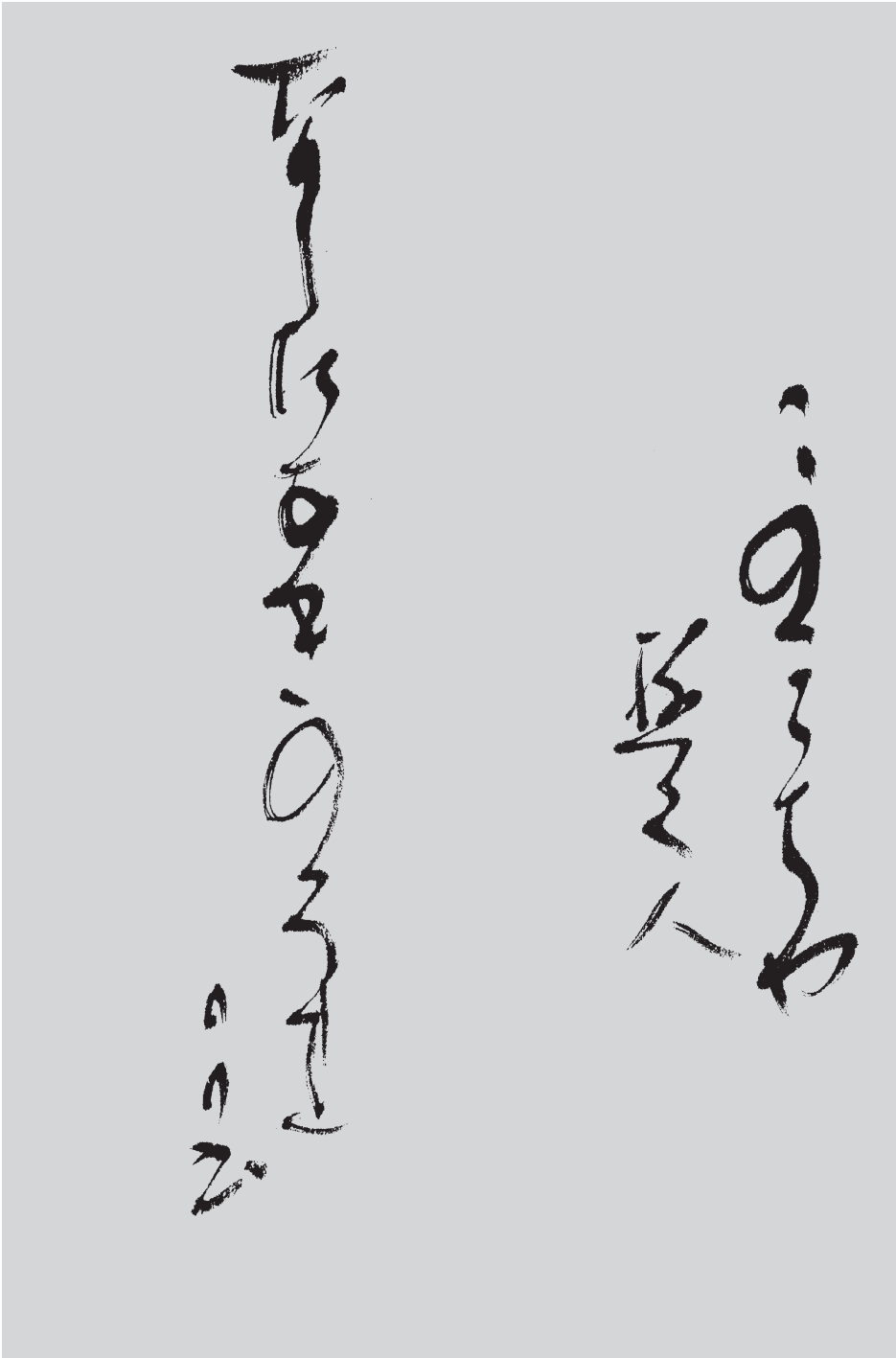


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

此道このちや行人ゆくひとなしに秋あきの暮くれ（芭蕉）  
この三みちや遊ゆ久く人になしにああきの久く連れ



〈詩情を味わい、書線を味わい〉  
芭蕉の名句、口誦むほどに情趣の迫り。「こ」入筆、鋭く下方から巻き込む。  
第二筆の弾き。「の」緩やかで豊かに円弧、「三」の一筆目に短く連綿。「三」  
二〜三筆目は軽妙。「ち」腰を細長くし「や」に強く入る。二行目「人」サラ  
リと軽く。一般的には「あ」墨継ぎ。「の久連」疎の連綿効果的に。

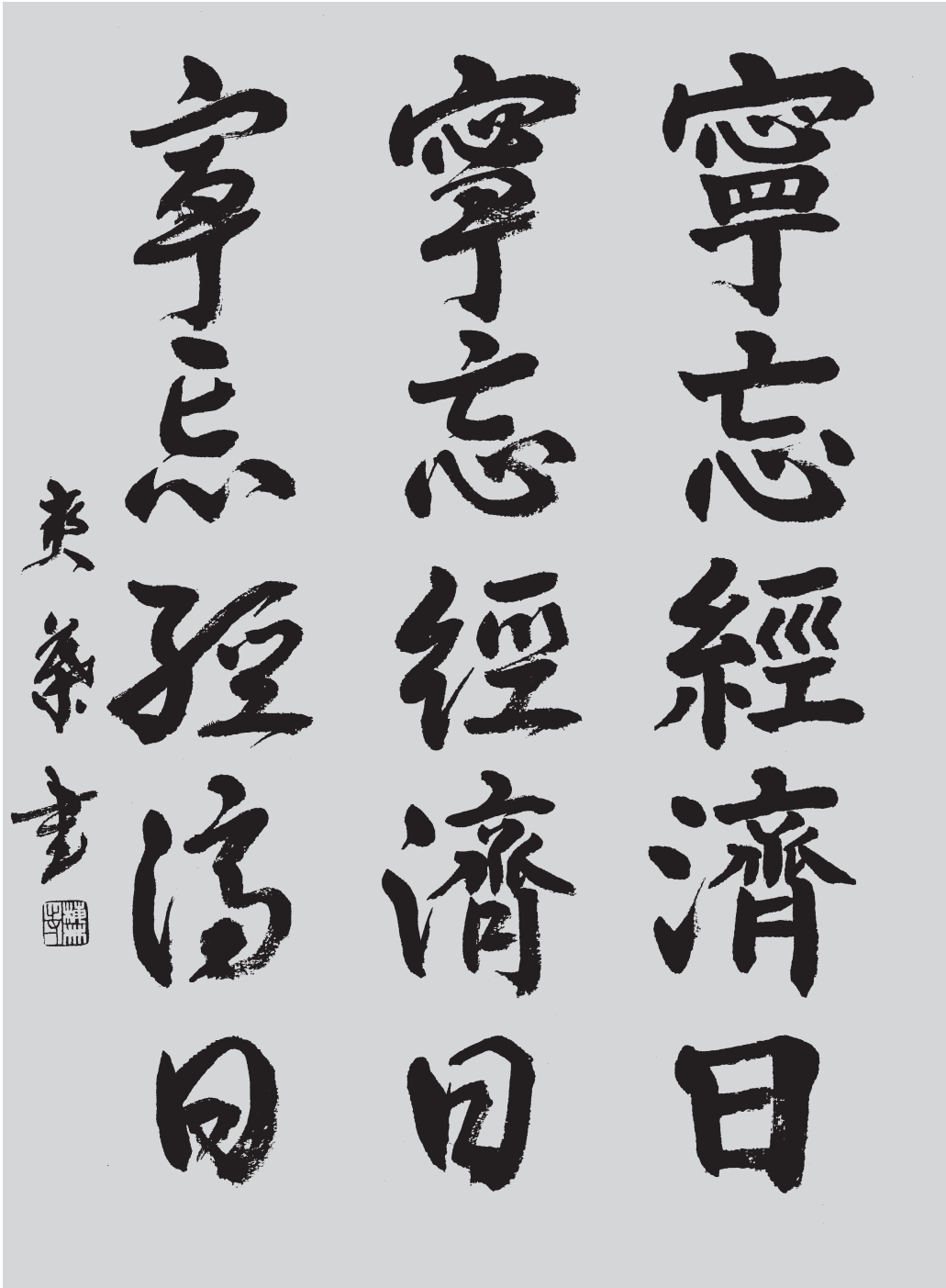
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



梅 林 寺 爽 葉 先 生 書

寧忘經濟日（孟浩然）  
寧んぞ忘れん 經濟の日



訳：張丞相には天下をおさめた日のことを片時も忘れないから、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

外川霞夕先生書

木葉千林雨 蘆花兩岸風（念佩）  
木葉千林の雨、芦花兩岸の風。

木葉千林  
雨、芦花  
兩岸の風

外川霞夕書

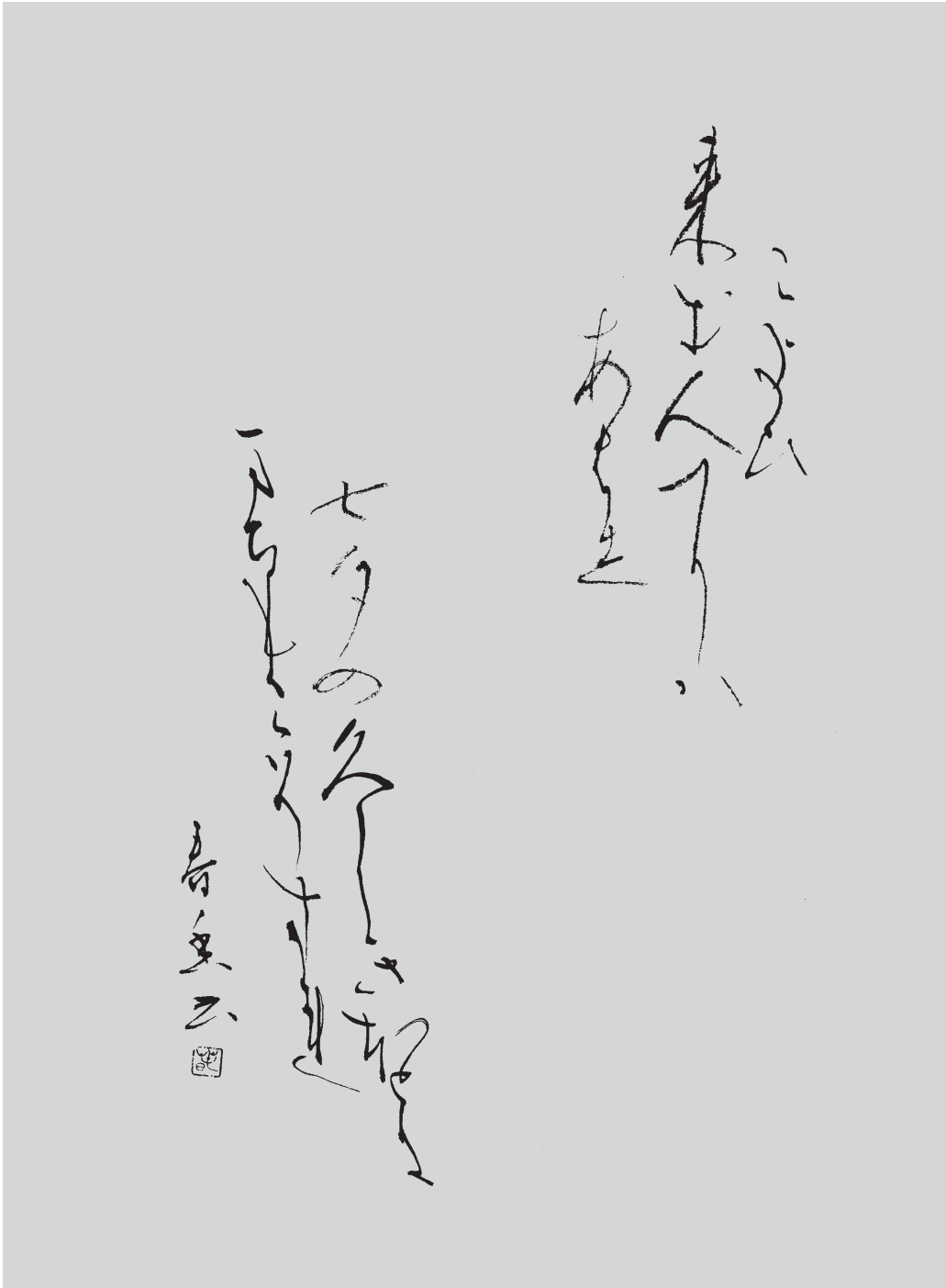
訳：木の葉の散るは千林の雨のように、あしの花はおのずから兩岸の風にみだれている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

石原春香先生書

こよひ来む人<sup>こ</sup>にはあはしたなばたの久<sup>ひき</sup>しきほどに待<sup>ま</sup>ちもこそすれ（古今和歌集 素性）  
こよひ来む人<sup>こ</sup>耳<sup>みみ</sup>八<sup>はち</sup>あ者<sup>もの</sup>志<sup>し</sup>七夕<sup>たなばた</sup>の久<sup>ひき</sup>しき本<sup>ほん</sup>と尔<sup>に</sup>万<sup>ま</sup>ちもこそ曾<sup>そ</sup>す連<sup>れ</sup>



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

正教授

創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一、〇〇〇円

神々しいまでの樹林には豊かな生命  
力と、山を守ってきた人間との長い  
精神生活の歴史が刻まれている。

夏の間水量が減っていた泉はいつの間にか復活し、そこから壁際の岩陰に続く細い水路は、再び透明な流れを取り戻していた。  
「琥珀のまたたき」小川洋子

課題 1 (初段階以上)

夏の間水量が減っていた泉はいつの間にか復活し、そこから壁際の岩陰に続く細い水路は、再び透明な流れを取り戻していた。  
「琥珀のまたたき」小川洋子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題 2 (初段階以下)

神々しいまでの樹林には豊かな生命力と、山を守ってきた人間との長い精神生活の歴史が刻まれている。

「熊野古道」高木美千子